

女子学生の衣生活に関する一考察

— 実態調査における —

小 川 秀 子

A Study on the Clothing of Female Students
by
Hideko Ogawa

1 は じ め に

1970年以降ファッションビジネスのめざましい成長により、アパレル産業から発信されるさまざまな情報は、雑誌・新聞・TV等マスメディアを通じて我々の目に飛び込んでくる。そのような情報をいち早く敏感にキャッチし、取り入れ、颯爽と通学する女子学生たちの「おしゃれ」に対する関心は非常に高い。

’60年代～’70年代ファッションが今再び若い女子学生の間に流行しているが、どのスタイルも画一的であり、個性がほとんど見えないように思える。

そこで本学短大生の衣服に対する意識を探り、実態調査をすることで、今後の消費者教育等の指導に役立てていくことを目的として、今回の調査を行った。

2 方 法

(1) 調査対象および調査時期

調査対象は本短期大学、生活文化学科在籍の1年218名を対象にアンケート調査を行った。内有効回答数は210名（回収率96.3%）であった。

調査時期は1993年7月上旬～9月上旬である。

(2) 調査方法および調査内容

調査方法は無記名のアンケート方式で行った。調査内容としては、生活環境、アルバイト、衣生活行動等の被調査者自身の主な行動をとり上げた。

調査内容は別紙に示す調査表。

3 調査結果および考察

(1) 生活環境について

被調査者の中で自宅からの通学者190名を対象に行った、質問1の親からもらう「一ヶ月の小遣い」の金額は月平均9,515円であり、その中で一番多くもらっている学生は50,000円で1名いた。(表1-1)その一方で親から全くもらっていない学生が37名(17.6%)おり、「小遣いについて」の回答が無い学生40名(19.0%)を含めると、全体の36.6%の学生が親からの小遣いをもらわずにいることがわかる。全体の中で「10,000円～15,000円未満」と答えた学生が一番多く、25.2%いることがわかる。

一方、一人暮らしの学生20名中、親からもらう「一ヶ月の生活費」の平均は91,647円であり、最低20,000円の学生から150,000円まで幅広く、金額の違いがあった。この生活費の内、自由に「小遣い」として使える金額が、いくらかについて質問してみると、30,000円と答えた学生が一番多くいた。通学者との金額の差を見ると、自由に使えるの内訳は単純に小遣いだけを意味せず、生活費も含めての金額を回答した学生もいるのではないかと推測される。

表1-1 一ヶ月の小遣い (%)

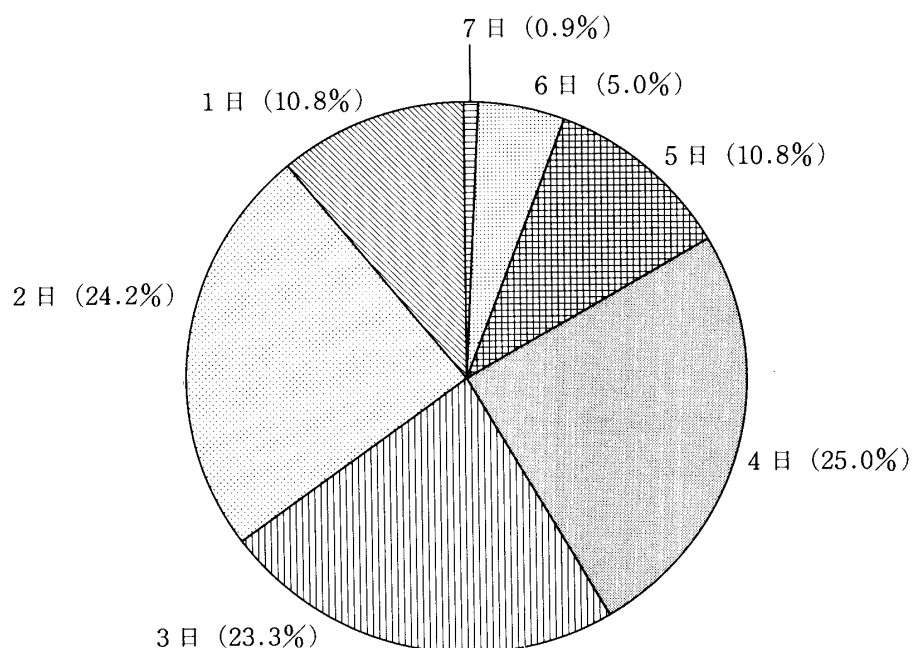
1	0円	17.6
2	～ 5,000円	1.9
3	5,000円～10,000円	15.2
4	10,000円～15,000円	25.2
5	15,000円～20,000円	5.3
6	20,000円～25,000円	12.4
7	25,000円～50,000円	2.9
8	50,000円以上	0.5
9	無 回 答	19.0

N=210

(2) アルバイトについて

「アルバイトの経験」については「経験がある」と答えた学生が125名(59.5%)と全体の6割弱の学生が経験していることがわかる。(図1-1)に示したように、その内「一週間に何日

図1-1 一週間に何日アルバイトしますか



アルバイトをするか」をみた場合、「4日」と答えた学生が(25.0%)と一番多くみられたが、「2日」(24.2%)、「3日」(23.3%)とほとんど変わらない出現数であった。

「アルバイト収入」について「一ヶ月平均いくら位稼げますか」と質問したところ、平均39,167円であり、最高100,000円から最低3,000円と金額に大きな差がみられた。その内訳としての職種における時給や日給のようすを今回のアンケートでは調査しなかった為、詳しい分析はできないが、中には一週間の内、数日だけの働きで、そのペースで一ヶ月間働き、わずかな日数のアルバイトにも関わらず高額収入を得ていた学生も見受けることができ、その点においてもアルバイトの職種・内容が気になる回答があった。

「小遣い金額別アルバイト収入」については、(表2-1)に示すように、一ヶ月にもらう小遣いの金額による違いが、「アルバイトの経験・有・無」にあらわれているのがわかる。三段階に層を分けてみると「小遣いを一番多くもらっている20,000円～50,000円未満の学生数」でみると「アルバイト・有」が36.4%であり、逆に「2,000円～10,000円未満と比較的少ない金額の学生数」の場合は72.2%と非常に高い数値を示している。親から全く「小遣いをもらっていない学生数」も66.2%とやはり多くみられた。親を頼らず自力で小遣いを捻出している学生が、そうではない学生と比較すると倍に近いことがわかる。

表2-1 小遣い金額別アルバイト収入

小遣い金額別	出現数	アルバイト・有(%)	平均(円)	最大(円)	最小(円)
高 金 額 層	33	36.4	47,100	85,000	25,000
低 金 額 層	36	72.2	35,884	70,000	3,000
もらっていない層	37	66.2	41,926	100,000	12,000

全体の数でみた場合、自宅からの通学生で日常の小遣いを、親から全くもらわずに過ごす36.6%の学生にとって、アルバイトで得る収入は自由に使えるお金として、重要な収入源であることが推測される。

(3) 衣生活行動について

質問4の「一ヶ月の衣服費」については(表3-1)に示すように、平均で14,429円であり、

表3-1 一ヶ月の衣服費

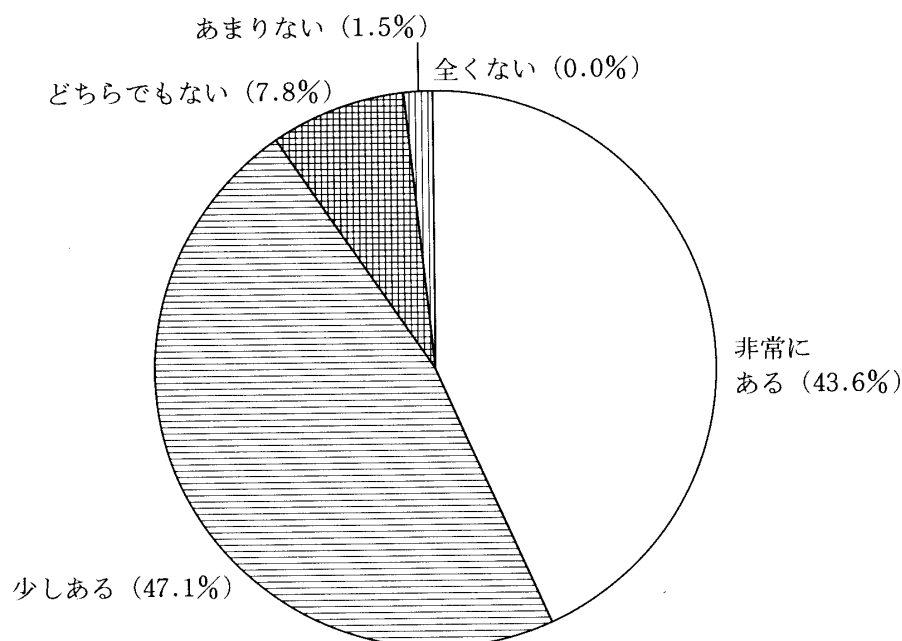
		(%)
1	10,000円未満	35.5
2	20,000円～20,000円未満	47.2
3	20,000円～30,000円未満	14.2
4	30,000円～40,000円未満	2.0
5	40,000円～50,000円未満	0.5
6	50,000円以上	0.5

N=197

最高50,000円、最低2,000円であった。この内「10,000円～20,000円未満」が47.2%と、約半数近い学生がいる。次いで「10,000円未満」の学生が70名(35.5%)と答えているが、その中で「10,000円未満」の金額の詳細を明記していた学生が半数近くみられたが、その内訳をみると36名の学生が8,000円から2,000円と答えており、平均でみると5,667円になることがわかる。次に多く見られたのが「20,000円～30,000円未満」と答えた学生は28名(14.2%)であった。「30,000円以上50,000円未満」は5名、「50,000円以上」と答えた学生も1名いた。

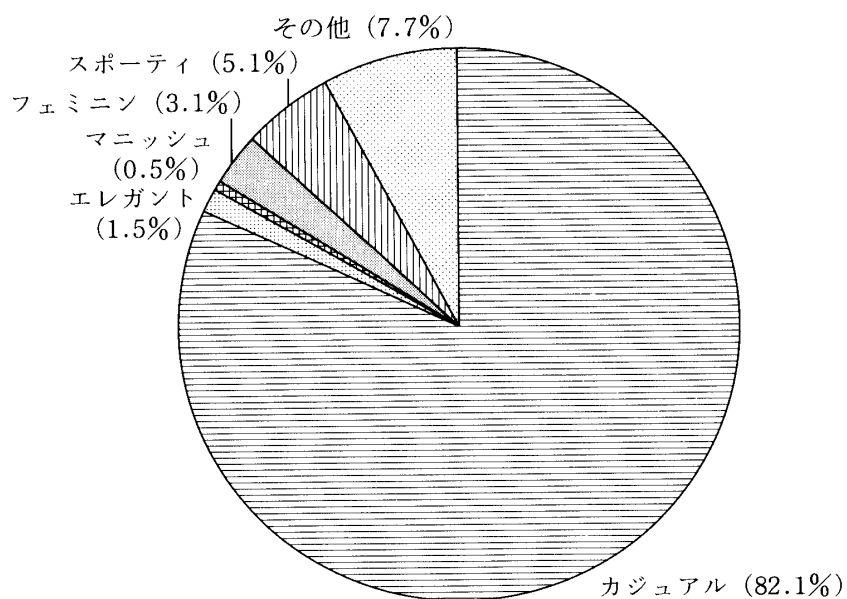
次に「おしゃれについての関心度」を(図2-1)にみると、「非常に関心ある」と答えた学生は43.6%、「少し関心ある」は47.1%で、全体の9割以上の学生がおしゃれに対しての興味や関心を持ってることがわかる。「全くない」と答えた学生は皆無であった。学生にとって関心度の違いこそあれ、おしゃれに対する興味や、関心が強いことがうかがえる。

図2-1 おしゃれ関心度



質問6 学生の日常生活におけるファッションスタイルについて、6タイプのスタイルを設定し、「普段どのようなファッションスタイルをしているか」を(図2-2)で示しているが、「カジュアル派」が82.1%と最も高い数値を現わし、次いで「スポーティ派」が5.1%であった。ほぼ9割近い学生がふたつのタイプのスタイルに属していることがわかる。学生にとって一日の大半の時間を学校とアルバイト先で過ごすことが多いだけに、活動しやすい無難なスタイルを好み、選択していることが推測される。

図2-2 普段どのようなファッションスタイルをしていますか



(4) 衣生活管理行動について

学生の「衣服の所有枚数」については平均91.1枚であった。最高枚数は240枚、最少枚数は31

枚と所有枚数に大きな幅がみられるが、今回の調査では学生の所有する衣服の全てを数えることを目的としたため、所有しているものの普段全く着用する機会がなく、処分されずに保管されたままの衣服も含めて、数えている学生も中にはいるのではないかと考えられる。というのも、所有数が100枚以上の学生数が全体の40.9%みられたからである。

次いで「着用しなくなった理由は何か」の質問に対して（表4-1）に示しているが、「自分の好みに合わなくなった」という項目を選択している学生が35.3%おり、続いて「流行おくれになった」という項目を26.3%が選択している。このふたつの項目に対しては、着用者である学生の衣服着用の心理が大きく影響しているとみられ、6割以上の学生が心理面からの理由を一番にあげていることがわかる。さらに18.9%の学生が「型くずれ・色あせ・破れその他の損傷」という衣服の劣化を理由にあげている。

表4-1 着用しなくなった理由

		(%)
1	流行おくれになった	26.3
2	着あきた	8.4
3	自分の好みに合わなくなった	35.3
4	型くずれ・色あせ・破れその他の損傷	18.9
5	着る機会がない	9.5
6	その他	1.6

N=190

「着用しなくなった不要衣服の処分について」は、「親戚・友人・知り合いにゆずった」と「ゴミと一緒に捨てた」を同数の43.3%の学生が選択している。次いで多くあげられた19.2%の「その他」の項目においては、素材面で吸湿性がよく、やわらかで肌触りのよいTシャツ類のような衣服は、切りきざんで「雑巾にする」、あるいは寝たきり老人が多い病院において必要不可欠なものとして重宝する、「下の世話用布」として病院へ寄付するといった意見も見られた。

質問10 「不要衣服の再利用や再資源」に対する関心度や「リサイクルショップの利用」については、（表4-2）に示しているが、「リサイクル」に関心がある割合が一番多くみられ、57.8%と半数以上の学生が答えている。「リフォーム」についても4割近い学生があげていた。ここ数年地球全体の問題として環境汚染・環境破壊といった問題がクローズアップされているが、「まず身近かなところからはじめてみよう、捨ててしまえばただのゴミ」にならないように、「利用できる何かを考え、興味を示し、実際にできるところからはじめてみよう」そのような考えを、9割以上の学生がもっていることがわかるが、今後の問題として充分真剣に考えていきたい課題である。

「リサイクルショップの利用について」は（表4-3）に示すように67.6%の学生が「利用したことがない」と答えている。リサイクルショップで扱われている「中古衣服に対する意識」について（図3-1）をみると「全く気にならない」は50.0%であったが、反対に「気になる」と答えた学生も半数近くみられた。中古衣服に対する意識はほぼ半々ではあるけれど、「利用する」までに至っていないのが現状のようである。

利用したことのある学生に「利用した理由」についてたずねてみたところ「デザイン・色・柄が自分の好みであった」が60.7%、「価格が安いから」も50.0%あげている。この項目に関しては複数回答をしている学生もみられるが、学生にとって自分の好みとコスト・パフォーマンスの

表4-2 不要衣服の再利用や再資源

1	リフォーム（仕立て直し）	39.3
2	リペア（修理・修繕）	2.9
3	リサイクル（再利用）	57.8

(%)

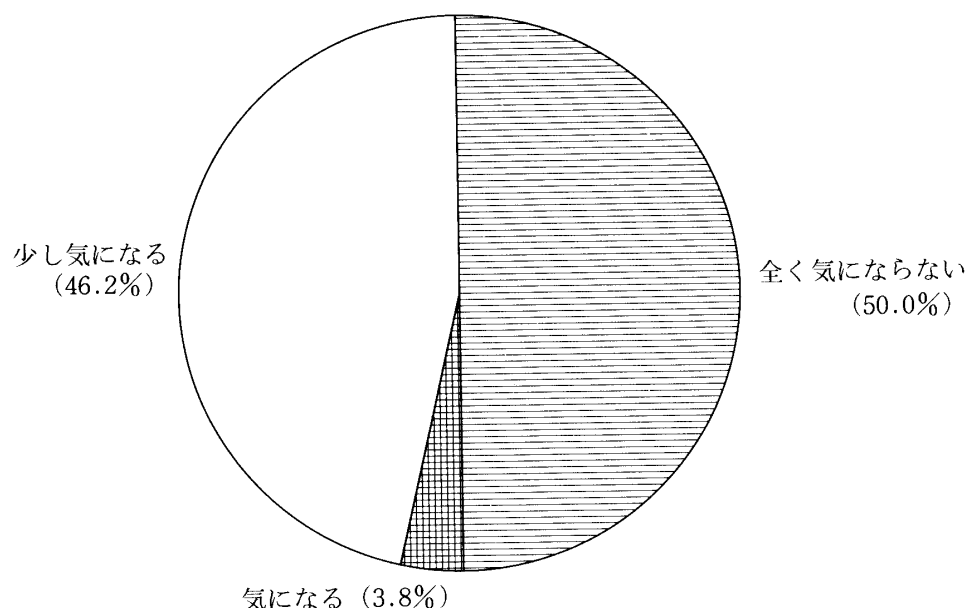
表4-3 リサイクルショップの利用

1	買ったことがある	26.7
2	自分の洋服を売ったことがある	1.9
3	利用したことはない	67.6
4	リサイクルショップを知らない	2.8
5	その他	1.0

(%)

一致をみれば、中古衣服に対する意識さえも変えることができるのではないかと推測される。

図3—1 中古衣料に対する意識



4 結 語

本学短大生の衣生活実態状況を知るために今回の調査を試みたが、次のような知見を得た。

1. 生活環境については自宅通学をしている被調査者の30%以上の学生が、親からは全く小遣いをもらわずに、アルバイトで自由にできるお金を調達していることがわかった。

親から小遣いをもらっている学生の場合は、一ヶ月の小遣いは平均で10,000円未満であったが、アルバイトで小遣いを稼いでいる学生も含めて、全体の平均でみると10,000円～15,000円という学生が、3割程度いることがわかった。

2. 生活行動についてはアルバイトをしている学生が全体の6割近くを占め、一週間の内に2日から4日アルバイトをしている学生がほぼ同数でいた。アルバイト収入は日数により異なるが、金額に相当開きがあった。

一ヶ月の衣服費は10,000円～20,000円未満の学生が約半数いた。しかしこの衣服費に関しては他県の女子大生とほぼ近い数字であり、ほとんど地域差はみられなかった。

おしゃれについての関心度は学生それぞれ個人差はあるものの、ファッションにかける意気込みを感じさせる学生も中にはおり、そのために学業よりもアルバイトに励み、おしゃれ代を稼いでいる学生もわずかではあるがいた。

3. 衣服管理行動について学生の衣服所有枚数は31枚から240枚と8倍近い開きはあるものの、平均所有枚数は91.1枚とかなりの枚数を所有している。それにもかかわらず大半の学生が、毎朝何を着たらいいか迷い、着るものがないと嘆きながら、その日のファッションスタイルに苦慮しているといった現状を明らかにしている。

大量の所有枚数はあるものの、流行を意識し購入した衣服は、‘時の風’と共に過去のものと

なり、衣服に流れる勢いはすっかりうすれ、今流れる‘風’との同調をことさらに拒み、流行遅れというレッテルを背中にはりつけて歩くほど、学生にとっては恥ずかしいものとして映り、クローゼットの片隅に眠っている。そのような衣服は被調査者が流行を追う限り増え続け、保管された死蔵品の量はますます増えていくのが現実である。

死蔵衣服の総量を全国一世帯あたりでみると31.4kgといわれている状況からしてみても、資源の再利用を考える機会を与えることは無論のこと、衣服を購入する際に学生の個性を尊重し、学生自身の価値観を踏まえた上で、本物を見分ける目を養い、基本的な知識や実践的教育も含めて学ばせる必要性を強く感じた。

以上のように本短大生の衣生活について若干の結果を得ることができたが、今後も学生の衣生活動向について調査を続け、衣生活教育・消費者教育に生かしていきたいと考えている。

終わりに本調査研究に御協力下さった学生諸姉にお礼を申し上げます。

参 考 文 献

- 1) 都築昌子：大妻女子大学紀要—家政系—No.30 (1994)
 - 2) 金谷喜子：大妻女子大学紀要—家政系—No.31 (1995)
 - 3) 津田欣子：衣生活Vol. 35 No.6 (1992)
 - 4) 飯塚弘子・万江八重子・香川幸子：服装デザイン論—文化出版局
- 注1) ファッションは時の風—ファッションデザイナー森英恵の言葉

衣生活に関する調査

問1 あなたは親から小遣いを一ヶ月いくら位もらっていますか。 () 万 () 千円

問2 ひとり暮らしの人は生活費すべて含めて一ヶ月いくら位もらっていますか。 () 万 () 千円

その中で小遣いとして自由に使える金額はいくら位ですか。 () 万 () 千円

問3 あなたはアルバイトをしていますか。

1. YES 2. NO

YESと答えたあなたに聞きます。

一週間に何日アルバイトをしていますか。

1. 7日 2. 6日 3. 5日 4. 4日 5. 3日 6. 2日 7. 1日

一ヶ月平均いくら位稼げますか。 () 万 () 千円

問4 一ヶ月に衣服費に費やす費用はいくら位ですか。

1. 1万円未満 () 円 2. 1万～2万円未満 3. 2万～3万円未満
4. 3万～4万円未満 5. 4万～5万円未満 6. 5万円以上 () 円

問5 あなたはおしゃれに興味がありますか。

1. 非常にある 2. 少しある 3. どちらでもない 4. 全くない

問6 あなたは普段どのようなスタイルをしていますか。

1. カジュアル 2. エレガント 3. マニッシュ 4. フェミニン 5. スポーティ

問7 あなたの持っている衣服の枚数を教えて下さい。 () 枚

☆ 夏期休業中に衣服調査を行った。

問8 着用しなくなった不要衣服の廃棄理由を○で囲んで下さい。

1. 流行おくれになった 2. 着あきた
3. 自分の好みに合わなくなった 4. 型くずれ・色あせ・破れその他による損傷
5. 着る機会がない 6. その他

問9 着用しなくなった不要衣服はどのように処分していますか。

1. 親戚・友人・知り合いにゆづった 2. ごみと一緒に捨てた
3. 廃品回収業者に売った 4. リフォーム（仕立て直しをする）
5. その他

問10 不要衣服の再利用や再資源が話題になっていますが、あなたは今何に一番関心がありますか。

1. リフォーム（仕立て直し） 2. リペア（修繕・修理） 3. リサイクル（再利用）

問11 リサイクルショップ（中古衣服店orフリーマーケット）を利用したことがありますか。

1. 買ったことがある 2. 自分の衣服を売ったことがある
3. 利用したことがない 4. リサイクルショップを知らない

買ったことがあると答えたあなたに聞きます。

あなたは中古衣服についてどのように思いますか。（以前着ていた人物）

1. 全く気にならない 2. 気になる 3. 少し気になる

何故その店で買ったのですか。

1. 価格が安かったから 2. デザイン・色・柄が自分の好みだったから
3. 自分の洋服とコーディネートできそうだから 4. サイズがぴったりだから
5. 仕立てがしっかりしていたから